

科目名	生物学	必修	授業形態			単位数	開講時期
区分	基礎分野		選択	講義		1	1年 前期
担当者	井上雅裕	資格	教授	実務 経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護の対象であるヒトを中心に、生物のしくみや生命活動の基本機構を理解することを目的とします。これらは生理学・生化学などの専門基礎分野の学習の礎となるので、しっかり学習して下さい。また、生物学や生命科学の発展は著しく、それらが対象とする事象や提起する問題点も様々です。これらの情報を的確に理解し、アップデートできるように必要な生物学の基礎知識と考え方も習得して下さい。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命体のつくりとはたらきについて説明できる。 2. 遺伝情報の伝達と発現のしくみについて説明できる。 3. 細胞増殖とからだのなりたちについて説明できる。 4. 生殖と発生について説明できる。 5. 生体維持のエネルギーについて説明できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物の特徴（イントロダクション） 2. 細胞の構造と働き（高等生物、細菌の細胞）、ウイルス （細胞小器官の働き、細胞膜の性質と働き） 3. 生体内の物質 無機物と有機物（タンパク質・糖・核酸・脂質） 4. 酵素の反応と代謝（同化と異化） 酵素の働き、光合成と呼吸、ATP 5. 細胞の増殖と分化 体細胞分裂と減数分裂、有性生殖と無性生殖 個体の発生（受精卵～胚～成体）、細胞分化、多能性細胞 6. <第1～5回目分のまとめ・課題提出（前半レポートor小テスト）> 7. 遺伝の法則（メンデルの法則）と本体（核、染色体、DNA、遺伝子） 8. 遺伝情報の伝達（複製）と発現（転写と翻訳） DNAの複製（半保存的、半不連続的）、発現（→mRNA→タンパク質合成） 9. ヒトの遺伝と病気 10. 個体の調節 恒常性の維持、自律神経系と内分泌系の働き 11. 環境応答 シグナルとストレス、ストレス感受性、耐性、抵抗性 12. <第7～11回目分のまとめ・課題提出（後半レポートor小テスト）> 13. ヒトと生物 14. 総復習 15. 期末試験 							
<p>教科書</p> <p>高畑雅一 他 系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>特に指定しません。 必要に応じてプリントを配布します。</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>前半レポートor小テスト（25点）、後半レポートor小テスト（25点）、出席と宿題提出（10回分）（50点）で評価し、合計点を成績とする。</p>							

科目名	情報科学	必修	授業形態		単位数	開講時期
			講義		1	2年 後期
区分	基礎分野					
担当者	園部 理恵子	資格	インストラクター	実務経験	有・無	時間 22 / 30時間
担当者	入野 了士	資格	看護師 保健師	実務経験	有・無	時間 8 / 30時間

情報処理の基本的考え方及び情報処理システムについて理解し、コンピュータの基本的操作を身につける。

Word：文書作成、Excel：表計算、PowerPoint：作成・発表などを実践する。
インターネットの概略を知り、インターネット検索、個人情報管理（セキュリティ）について学ぶ。

学生の到達目標

1. コンピュータを扱う基本的な知識や技術を修得できる。
2. 情報倫理と情報通信、セキュリティについての知識を修得し、判断できる。
3. 安全性を考慮した情報の扱い方がわかる。
4. パワーポイントを作成し、発表できる。
5. 集団の特性を客観的に数値化することができる。

授業概要（授業計画）

1. } セキュリティ・個人情報・引用 Windows・PowerPoint説明
2. }
3. } Word 書式の設定・Word 表の作成、印刷、Word 課題、
4. } インターネット検索・資料収集
5. } Excel データ入力、書式の設定、罫線、関数、Excel 課題
6. }
7. } PowerPoint 作成・発表
8. }
9. } 発表
10. }

<学内課題> 入野先生

1. 統計処理
2. グラフ化と分析
3. 平均・中央値・標準偏差, t 検定
4. まとめ

教科書

テキストなし。パソコン画面の操作が中心。メモの準備。
自作資料

参考書

自作資料(基礎看護方法論VI 入野の資料)

成績評価方法

学科試験および授業中の態度、課題の提出状況、プレゼンテーション、出席時間数などを総合して行う。
評価は60%以上を合格とする。

科目名	哲学（倫理学含む）	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	1年 後期
区分	基礎分野	選択					
担当者	高安伸子	資格	文学博士	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>人間は、自らの生き方を自由に選ぶものである。（本当に自由でありうるのか？） 生きていくことの意味を求め、よりよく生きるために環境を創り変えていく。そのために、 悩み、迷い、問題を抱える存在である。現代に生きるわたしたちは、人間の生活が自然との幸福な調和のうちでない、ということを知っている。人間は死に対して不安を抱き、死を自然なこととして受け入れることができない。このような人間存在について理解を深め、人間が守るべき倫理について、一緒に考えてみましょう。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <p>1. 人間が守るべき倫理についての自己の考えを述べることができる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学 Philo sophy とは 2. 哲学 3. 共生のグローバルな課題：地球規模の環境問題、飢餓、貧困の問題について考える 4. 『倫理という力』 5. 倫理とは 6. 生命倫理の問題について考える 7. 理想主義の倫理 8. 現実主義の倫理 9. 実存主義の自由 10. 宗教 Religion Re-ligio 人と神 『聖書』を手がかりに 11. イエス・キリスト 12. 釈迦の教えを手がかりに 13. 人間の死と終末期医療の問題 エリザベス・キューブラー・ロス『死とその課程について On Death and Dying』1969 14. 人間の死と終末期医療の問題 ホスピスの哲学 15. レポート 							
<p>教科書</p> <p>その都度プリントを配布</p>							
<p>参考書</p> <p>授業中にその都度指示する</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>授業の態度（積極的に参加すること） レポート</p>							

科目名	保健科学 I	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習			1	2年 前期
区分	基礎分野						
担当者	高橋 正行	資格	講師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>現代のわが国の健康問題について理解を深め、身体運動が心身の健康にもたらす効果について概説し、現在及び将来の健康生活を考える契機となることを期待する。 さらにスポーツに関して心理学的側面からの理解を深め、今後のスポーツ活動にできるようになることを期待する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動・スポーツによる心身への影響について理解できる。 2. 心身の健康にさまざまな影響を及ぼす日常生活から生活リズムを見直す。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心と体のバランス 2. ストレス緩和の運動とは 3. 運動がメンタルヘルスに与える影響 4. 食生活とメンタルヘルス 5. 睡眠とメンタルヘルス 6. 飲酒とメンタルヘルス 7. たばことメンタルヘルス 8. 生活リズムとメンタルヘルス 9. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>なし</p>							
<p>参考書</p> <p>「心も体も健康に」 古賀義彦 社会保険出版社</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>試験で評価する。実技・出席時間数重視する。</p>							

科目名	保健科学Ⅱ（実技含む）	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
区分	基礎分野		講義			2	1年 前期 3年 後期
担当者	浅井英典	資格	教授	実務経験	有・無	時間	4 / 30時間
担当者	井門恵理子	資格	健康運動実践 指導者試験官	実務経験	有・無	時間	11 / 30時間
担当者	明比君江	資格	健康運動実践 指導者試験官	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間

授業の目的・ねらい

身体各骨格筋について理解し、身体各部の動作と影響について理解を深める。
 さらに、スポーツを通して健康生活を支える運動について学ぶ。運動についてはエアロビを取り入れ、学習の効果を図る。
 現代のわが国の健康問題について理解を深め、身体運動が心身の健康をもたらす効果について概説し、現在および将来の健康生活を考える契機になることを期待する。
 エアロビクスを通して、自己の体力の維持・増進を図る。
 また、グループで創作ダンスを考え、発表することによって、対象に合わせたレクリエーション活動に生かしていく。

学生の到達目標

1. 身体各骨格筋について説明できる。
2. エアロビクスをとおして体力の維持・増進を図ることができる。
3. 運動処方原則について説明できる。
4. 運動・スポーツによる心身への影響について理解できる。
5. 運動学習理論・動機付け・運動と性格について理解できる。
6. グループで創作ダンスを考え、発表することができる。

授業概要（授業計画）

<浅井英典> 1年次

1. 成人の体力の現状、体力評価の方法について
2. 運動処方の理論と運動プログラムの作成について

<井門恵理子> 1年次

1. 自分にあつた運動について、フィットネス、メディカルモデル、心臓血管フィット
2. ウォーミングアップとストレッチ
 日常動作能力改善のための椅子を利用した運動
 下肢筋力の維持・向上を目指した椅子を利用した運動
3. 日常動作能力改善のためのタオル・ロープを利用した運動
 下肢筋力の維持・向上を目指したタオル・ロープを利用した運動
4. ギムニクボールによるレジスタンストレーニングなど
5. リズム体操によるレジスタンストレーニング
6. 終講試験・まとめ

<明比君江> 3年次

1. 有酸素運動・ストレッチ
2. エアロビクス
3. } 創作ダンスのグループワーク
4. }
5. 創作ダンスの発表
6. } レクリエーション スポーツ
7. }
8. 評価・まとめ

教科書

特に指定しない

参考書

運動処方指針 アメリカスポーツ医学編 南江堂

健康運動指導者のためのフィットネス基礎理論 小沢治夫 日本エアロビクスフィットネス協会

成績評価方法

授業最終日に行う筆記試験によって評価を行う。

また本授業は実技を多く取り入れるため、出席時数を重視する。

科目名	心理学	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 前期	
区分	基礎分野						
担当者	橋田生子	資格	臨床心理士	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>心理学は生活体の行動を科学的に研究する学問である。また、心理学はわれわれ自身の行動及び他者の行動に関して洞察を与えてくれるという意味で、生活に密着した科学であり、その原理や概念は、われわれの日常生活に適用できるものである。以上のことから、本授業では、心理学の主要な研究成果を概観することによって、日常生活に資する心理学の基礎的知識を習得することを目的とする。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基礎的知識を習得し、自己及び他者を理解する。 2. 医療従事者として対象の行動について、心理学な観点から理解する力を身につける。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とは 2. 視覚について 3. 錯覚について 4. 記憶の心理（記憶の諸相、忘却） 5. 学習の心理（学習の種類・学習条件） 6. 交流分析と構造分析（エゴグラム） 7. エゴグラムと行動パターン・各自我状態の高め方 8. 理解度確認テスト・ふり返り 9. 乳児期の発達 10. 幼児期の発達 11. 乳幼児期の課題と心理 12. 青年期～壮年期の課題と心理 13. 中年期～老年期の課題と心理 14. 終講試験 15. まとめ 							
<p>教科書</p> <p>使用しない</p>							
<p>参考書</p> <p>参考図書は、必要に応じてその都度指示する。</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>期末試験。授業毎の小レポート。出席状況。</p>							

科目名	人間関係論	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習			1	1年 前期
区分	基礎分野						
担当者	橋田生子	資格	臨床心理士	実務経験	有・無	時間	20 / 30時間
担当者	三品修子	資格	幼稚園教諭 保育士	実務経験	有・無	時間	10 / 30時間

授業の目的・ねらい

人間を人との関係で生き、成長する存在として捉え、人間関係を円滑に保つ必要性和その方法について学ぶ。

グループワークを中心とした体験学習を通して、主体的に学ぶ。

さらに、看護者としてふさわしい人間関係とはどのようなものかを考える。

学生の到達目標

1. 自己理解・他者理解の方法を学び、対人関係に活かすことができる。
2. 看護者としてふさわしい人間関係について、自分の考えを述べることができる。
3. 医療現場で使用する基礎的なことを手話で表現し、読み取ることができる。

授業概要（授業計画）

<橋田生子>

1. 人間関係の中の自己と他者 自己紹介・他者紹介
2. 対人関係と役割
3. 態度と対人行動
4. 集団と個人
5. コミュニケーション
6. カウンセリングと心理療法
7. コーチング 人間関係の向上へのスキル
8. アサーティブ・コミュニケーション
9. 保健医療における人間関係
10. 終講試験・まとめ

<三品修子>

1. 手話とは
日常よく使われる挨拶表現
指文字と手話
2. 手話での自己紹介
3. 医療現場で使用される単語の手話表現と読み取り
4. 医療現場での例文の手話表現と読み取り
5. 終講試験・まとめ

教科書

系統的講座 専門分野 人間関係論 医学書院

参考書

成績評価方法

終講試験、レポート、出席日数及び授業態度、提出物等を総合評価する。

科目名	文学	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	1年 前期
区分	基礎分野						
担当者	新井英夫	資格	教授	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい 文学を通して、情緒・感性を養い、文章の読解力や表現力を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ジェイン・オースティンの作品に共通する特徴を説明できる。 2. 文学批評に必要な基本的な用語を理解することができる。 3. 作品の構造、人物関係を明確に説明できる。 4. 作品のテーマについて、説得力のある論を展開できる。 5. 19世紀前半のイギリスのにおいを感じ取ることができる。 6. フェミニズムの観点から、小説を読解できる。 <p>本年度は、出版から200年以上を経た現在もイギリスで人気を保ち続けている恋愛小説ジェイン・オースティンの『高慢と偏見』を取り上げます。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『高慢と偏見』を読む前に考えておくべきこと：講義&解説 2. 『高慢と偏見』の第1～10章を読む：精読&討論&解説 3. 『高慢と偏見』の第11～20章を読む：精読&討論&解説 4. 『高慢と偏見』の第21～30章を読む：精読&討論&解説 5. 『高慢と偏見』の第31～40章を読む：精読&討論&解説 6. 『高慢と偏見』の第41～50章を読む：精読&討論&解説 7. 『高慢と偏見』の第51～61章を読む：精読&討論&解説 8. 最終試験・まとめ <p>※ 毎回、該当箇所の小説内容を問う小テストを実施する。 ※ 各講、該当範囲を事前に読んでくること。</p>							
<p>教科書 ジェイン・オースティン著 中野康司訳 『高慢と偏見』（上）（下） ちくま文庫</p>							
<p>参考書 特になし</p>							
<p>成績評価方法 最終試験70点+課題30点 その他、評価の方法・基準に関する詳細は、初回授業にて説明します。</p>							

科目名	国語表現	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	1年 前期
区分	基礎分野						
担当者	永野英明	資格	教諭	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>書くことや話すことについて、その理論と実践について学び、国語表現力を高めることを目指す。</p> <p>さらに、看護師として必要な論文やレポート作成についても学習し、国語表現の技術を身につける。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <p>1. 目的や場に応じて、効果的な表現で的確に文章表現することができる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的な文章とは？ 2. 情報の明確な伝達 3. 表現のルール（その1）（国語の文法） 4. 表現のルール（その2）（国語の表現技法） 5. 新聞のコラム（文章構成法） 6. 「原稿用紙のルール」 「序論・本論・結論の書き方に慣れよう」 7. 小論文の書き方 8. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>自作資料</p>							
<p>参考書</p> <p>随時紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>レポート、出席状況、授業態度等により評価する。</p>							

科目名	教育学	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
区分	基礎分野		講義			1	2年 前期
担当者	白松 賢	資格	教授	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>望ましい人間形成を目指す営みとしての教育意義を理解することにより、看護と教育の接点についての深い考察に基づいた看護活動を目指すとともに、生涯学習の基礎となる自己教育力を高める。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <p>1. 教育の意義を理解し、自己教育力を高め、臨地実習や看護場面でのケアや指導を実践することができる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師の職業世界 責任：教育の可能性と限界とは 2. 社会で必要な力とは?? - 教師や看護職に求められる能力 - 3. 熱血教師の誕生と教育学の発展 4. 個性を育むとは? ゲーム型ワークショップで考える 5. 教職への信頼の揺らぎ - 不祥事から考える服務上・身分上の義務 - 6. 個性と社会性 7. 教育と学校の誕生 - 教職教養の重要性 - 8. 組織マネジメントの中で成長する 解決的アプローチと開発的アプローチ「開発的アプローチ」 9. 看護師としての成長 - 自己成長のロードマップを考える - 10. マインドマップ作り 11. 教職教養の重要性 12. マインドマップ発表 13. 教育改革に学ぶ、クロニクルな資質能力～日本と欧米の違いから～ 14. グループワーク：新聞紙で衣装創作・発表会 15. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>プリント</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>終講試験・授業中の態度により評価する。</p>							

科目名	社会学	必修・選択		授業形態	単位数	開講時期
区分	基礎分野			講義	1	2年 前期
担当者	野崎賢也	資格	准教授	実務経験	有・無	時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>社会学は、社会全般あるいは各種社会集団における人間と人間との関係を研究する学問であり、人間を理解するための重要な基礎的学問であることを認識させる。</p> <p>医療という人間の営みは、人間を多角的に理解することのうえに成り立つものである。したがって社会学と医療との関係及び諸問題について理解を深めさせるとともに、さらに広く社会福祉についても考察させる。</p>						
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 大きく変わるつつある社会の動きに関心を持つとともに、「社会」のとらえ方について理解できる。 社会的視点から考察することで、現代の社会と医療との関係及び諸問題について理解できる。 						
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 社会学とは マクドナルドの映画から、個人の責任について考える 前回授業の学生の感想を元に振り返り ビックマック・マニアはなぜ太らないのか 現代の工業化された食品と消費社会 現代の工業食品の裏側 健康格差の解決策のDVD鑑賞 炭水化物のDVD鑑賞 7. } 日本の貧困について 8. } 9. } ワーキングアップについて 10. } 11. 医療と健康の格差 平等／不平等について 12. 水俣病についてDVD鑑賞 13. 公害・薬害の社会的被害（サリドマイド） 14. 復習 15. 筆記試験・まとめ 						
教科書						
参考書						
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験・出欠状況・ノート整理等</p>						

科目名	外国語（医療英語含む）	必修・選択		授業形態		単位数	開講時期
				講義		1	2年 前期
区分	基礎分野						
担当者	笹間佐和子	資格	HSK 7級	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	別宮由紀子	資格	高校教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間

授業の目的・ねらい

国際文化の時代にあって、保健医療活動や看護活動の場で、外国語の能力（表現・理解）が必要とされている。

病院の日常場面を英語で学習し、表現する訓練を行いながら、基礎的知識を中心に英語能力の定着をはかり、看護活動の場で英語によるコミュニケーションができる能力を養う。

また今治地域は、地域社会との交流をより強化するため、外国人の技能実習生や留学生として中国人が多数来日している。よって、医療系の中国語を学び、中国人をはじめとする外国人の受信者にどう対応していくのかも学ぶ内容とする。

学生の到達目標

1. 国際社会に対応し得る英語表現の能力を身につけることができる。
2. 中国語の単語、発音、文法、会話をフレーズレベルで身につける。

授業概要（授業計画）

- < 笹間佐和子 > 中国語
1. ～ 6. 中国語の基本的発音・小テスト
 7. まとめ

- < 別宮由紀子 > 英会話
1. 自己紹介から始めましょう
患者さんに質問しましょう
 2. 場所や方向は正しく教えましょう
患者さんの具合を聞きましょう
 3. 診察時に必要な言い方を覚えましょう
相手によく確認しましょう
 4. 行為を促す言葉をかけましょう
的確な指示や依頼をしましょう
 5. 食べ物に関する言い方を覚えましょう
薬に関する言い方を覚えましょう
 6. 患者の要望に応えましょう
治療方針について説明しましょう
 7. 患者の質問に答えましょう
退院後の生活指導をしましょう
 8. 終講試験・まとめ

教科書

古閑博美／野口陽子 English for Cure and Hospitality 鷹書房弓プレス

参考書

演習プリント

成績評価方法

筆記試験を中心に、授業態度、提出物を加味して評価する。